



シザーリフトをお使いになる前に

ご利用になる前に必ずお読みください！

●設置までの簡易説明

○ 設置までの取り付け手順をご説明します。

- ① ポンプユニットのカバーパネル側面からネジ 4 つを外し(図 1)、カバーパネル正面と外周を外します。(きつく締まり、カバーパネルがはねる場合がありますので、外す時は押さえてください。)



図 1

- ② 油圧ホースを T 型継手につなぎます。(図 2)
※中央金具のスパナサイズ 15、左右金具のスパナサイズ 19)



図 2

- ③ プラットフォームのセーフティーロックから伸びるエアーストックを繋ぎます。(図 3)

※黄色いテープが目印



図 3

- ④ オイルを入れてください。

※ 5L タンクと記載がありますが、4~5L で満タンですので、3~4L が推奨です。

分量計はついていませんが、オイル分量は目視で見えます。(図 4)



図 4

⑤ カバーパネルの外周を取り付けます。(図 5)



図 5

⑥ ポンプユニットとコンプレッサーを繋ぎます。カバーパネルの正面を固定する前にエアースペースを通しておきます。(図 6)



図 6

カバーパネルの正面を取り付けます。(図 7)



図 7

⑦ リフトの電圧に合わせて電源プラグを取り付けください。電源を接続したら準備完了です。

(注)初めてオイルを入れた後、本体シリンダー内にオイルが行き渡るまでしばらく時間がかかります。リフトが上昇し始めるまで、POWER/UPスイッチを右に回したままで続けてください。(図 8)



図 8

●使用方法と用途



コントロールボックス

リフトを使用するための操作は、次の通りです。

1. POWER/UP スイッチ
メインスイッチです。右に回すことで ON/OFF を切り替えます。
OFF : 電源が入っていません。
ON : 電源が入っています。リフトが上昇します。
2. DOWN ボタン
押すと、油圧ユニットが作動し、リフトが下降します。
3. LOCK ボタン
押すと、緩やかに下降させ、ロックを掛けます。

注：作業中は、リフト付近に人や物がないことを確認してください。

車両の位置決め

車両をプラットフォームの中心に置き、昇降スロープを調整します。
自動車メーカーが指示した位置の下にパッドを置き、持ち上げます。

リフトを上げるとき

- ①POWER/UP スイッチを右に回しながら、リフトを任意の高さまで上げてください。
- ②POWER/UP スイッチから、手を離したら LOCK スイッチを押し、ロックを掛けてください。

注：必ずロックが掛かったことを確認してから作業を行ってください。

リフトを下げるとき

リフトは、自重と車両の重量で下降します。

- ①POWER/UP スイッチを右に回し、少し上げてロック解除してください。
- ②DOWN スイッチを押し、リフトを下げてください。

注：作業中は、リフト付近に人や物がないことを確認してください。

！警告！

リフト上昇中にロック板が左右 2 枚とも上がり、ロック解除が出来ている事を確認しながらリフトを下げてください。万が一、片方のロック板が上がっていない場合は、直ちにDOWNボタンから指を離し、購入店まで連絡してください。

片側のロック板が下がったままの状態ではリフトを下げ続けると、リフトの左右に高低差が出来て車両が落下する危険性があります。

手動・非常停止

電力が無い状態でリフトを下降させるには、下降ボタンを押すだけです。

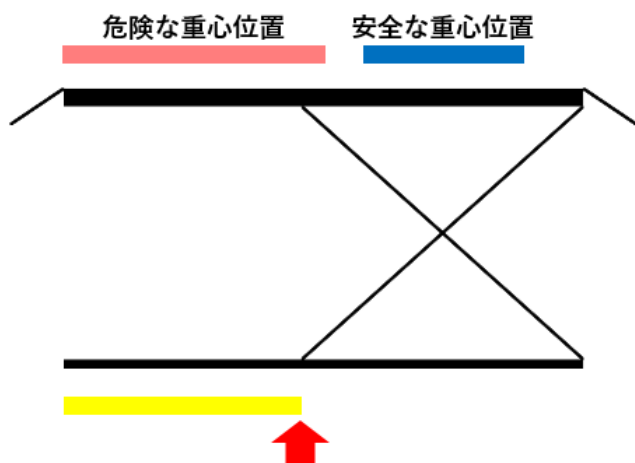
リフトが下がらない場合は、機械的安全装置がロックされているかどうかを確認してください。

安全装置がロックされている場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

● 嚴重注意事項

偏荷重や片上げでの使用は禁止です。

- 車体の重量バランスをリフトの適正位置(下図を参照)に合わせて上昇させてください。特に下記のようなリフトアップする際は注意が必要です。また、危険が伴う作業のリフトアップは禁止です。
 - ① 車重が 2t 以上ある車両のセット
 - ② 全長が 5m 以上など長い車両のセット
 - ③ 前後の重量バランスが悪い車両のセット
 - ④ ワンボックス車やトラックなどジャッキアップポイントが高い位置にある車両のセット
 - ⑤ 付属のゴム受台以外の社外受台を使いリフトアップする場合
 - ⑥ エンジンやミッションなど重量物の脱着時
※車両がバランスを崩し、脱落する危険があります。
 - ⑦ 前輪や後輪だけを持ち上げる片上げの禁止



危険な重心位置で上昇させると、↑（矢印）部分に集中荷重がかかり、黄色部の剛性が低い為に折れ曲がり、後方に転倒する可能性があります。



リフトにアンバランスの負荷を加えると左図のようなトラブルが発生することがあります。

※このような危険を伴う使用での故障は、保証対象外となります。